

平成 19年度第 10回武石地域協議会会議録

日時 平成 20年 3月 18日（火）午後 3時 00分から午後 5時 10分

場所 武石地域自治センター2階会議室

出席委員 新井繁雄委員、井出守雄委員、伊藤静子委員、伊藤隆子委員、内田安博委員、柿蔭祐子委員、北沢直美委員、清住章雄委員、清住隆幸委員、小山洋江委員、桜井敏昭委員、桜井美枝委員、橋詰真由美委員、松井幸夫委員、松代典之委員、依田せつ子委員

欠席委員 北沢武委員、小池文男委員、高田忍委員、滝沢潔委員

市側出席者 宮下武石地域自治センター長、広川地域振興課長、山口市民生活課長、近藤産業観光課長、桜井建設課長、児玉教育事務所長、児玉地域政策係長、掛川主事

傍聴者 なし

1 開会

（広川課長）

ただ今から平成 19年度第 10回武石地域協議会を開催させていただきます。本日は、北沢武委員、小池委員が欠席、また小山副会長、北沢直美委員、高田委員が所用により遅れる旨連絡がきておりますので、よろしく申し上げます。

2 会長あいさつ（桜井会長）

皆さん、ご苦労様です。

2年間、皆さん方のご協力により本日最終の地域協議会を迎えることができました。皆様にご協力いただきましたことに深く感謝いたします。本日は、報告的なことが主になりますので、よろしく申し上げます。

3 センター長あいさつ（宮下センター長）

年度末でお忙しいところ、大変ご苦労様です。

昨年 9月に地域協議会が発足し 1年半、あっという間に時間がたったような気がしています。合併して丸 2年ですが、職員につきましても仕事の仕組みやシステムの仕組みにだいぶ慣れてきており、ようやく地に足が着いて最近では自信も感じられるかなというふうに思っているところです。おそらく委員の皆さん方も、合併後ははらはらして見ていたかと思いますが、そうした点で少しは落ち着いて見ていただけるようになってきているかなというふうに感じているところです。ただ、合併協議の実行につきましては、まだまだ統一していないところもありまして、今後 2年間くらいがひとつの区切りかなというふうに思っています。

地域協議会につきましては、地域のことは地域で解決しようという地方分権の考え方により設置されたわけですが、地方自治法の改正により法律の中でもそうした考え方が裏付けられているということです。今回の平成の合併につきましては各地の市町村で設置されてきていると

ころですが、どこでも今までなかったことですので手探り状態で進んできているだろうと思います。幸い武石では、いろいろなお立場から協議会の委員に参加されているわけですが、それぞれ地域づくりに熱意があり、問題意識をお持ちの方々です。市内には9つの地域協議会がありますが、最初に市長に対し、広報の地域版を発行するよう意見書を出していただきました。これは昨年から発行いたしました地域自治センターだよりとして結実しています。また、昨年は児童館の建設についても意見書を市長宛に提出いただきまして、これも実現に向け大きく動き出したところです。協議会として大きな成果であったと感謝申し上げるところです。また、武石地域協議会につきましては他の協議会と比べましても、大変活発であったということで、他の地域や行政からも注目をいただいた協議会でありました。委員の皆さん方には当初、行政の専門用語もありましてなかなか難しい面もあったかと思えます。予算のシステムなどもわかりづらいところがあるかと思えます。1期1年半ということで、失礼な言い方ではありますが、そうしたことに慣れていただく期間でもあったかと思えます。4月から2期目が始まるわけですが、それぞれのお考えの元に新しい提言や地域づくりの実行部隊として、これからご活躍いただけるのではないかと期待しているところです。また、地域協議会というものにつきましては、武石という地域の課題を解決していくということがいちばん重要な問題ですが、同時に他の地域ではどうなっているかを研究したり、あるいは事例を参考にしたりして、お互いに切磋琢磨する、あるいはそうしたことで地域間競争ということを大切に考える、逆に地域間での協働ということも必要でないか、そうしたことが地域の一体感の醸成につながっていくのではないかと思います。本日は1期目の最後の協議会です。合併当初より暗中模索の中で協議会も進んできましたが、大変いろいろなご意見をいただきありがとうございました。これからもよろしくご指導いただきたいということでお願い申し上げます、ごあいさつとします。

4 会議事項

- ・平成20年度予算の概要について

(桜井会長)

それでは会議事項に入ります。最初に平成20年度予算についてご説明をお願いします。

各課長から平成20年度予算の概要について資料に基づき説明

《説明内容》

平成20年度武石地域の主な予算(最終的には、明日3月19日の最終議会で決定する。)

(単位:千円)

事業	予算額	特定財源等	金額
地域振興課			
自治センターだよりの発行	500		
各種イベント活性化事業 (武石地域の各種イベント用具(被服、音響、看板、机等))	2,900	地域振興基金	2,900
わがまち魅力アップ応援事業(新市造成分基金活用事業)	2,600	地域振興基金	
オフトーク通信回線使用料	9,557		

消防施設整備事業(防火水槽有蓋化(小沢根)) (消防積載車ポンプ更新(中島、余里))	1,229 2,500	施設整備事業債 合併特例債	1,150 1,090
市民生活課			
自治会防犯灯新設補助金(新設工事費 1/2 補助)	275		
自治会防犯灯電気料補助金(344 灯 電気料 1/2 補助)	413		
新エネルギー活用施設設置補助金(太陽光発電)	1,000		
除雪機購入補助金(自治会対象)	300		
資源回収自治会奨励金(古紙、古布、缶、ビン)	1,430		
資源物回収収納庫設置補助金(20 箇所×150 千円)	3,000		
健康福祉課			
雲溪荘利用補助金(全戸対象、宿泊券、日帰り券)	2,700	地域振興基金	2,700
雲溪荘特別招待補助金(70 歳以上対象)	3,600	地域振興基金	3,600
うつくしの湯補助補助金(15 歳以上対象)	2,650	地域振興基金	2,650
依田窪老人保健施設負担金	15,629		
依田窪病院会計負担金	118,890	地方交付税配分金	55,122
産業観光課			
県営中山間地域総合整備事業負担金 (15%負担 大堰水路 2000m、西武排水路 300m)	16,250	農業基盤整備事業債	9,400
市単土地改良事業(起債対象)(農業用施設 水路改修工事)	9,000	地域活性化事業債 受益者負担金	6,200
市営土地改良事業(維持管理的工事)農業用施設小修繕工事	1,700	受益者負担金	
〃 (その他工事)農業用施設小修繕工事	1,500		
市単土地改良事業補助金 (唐沢圃場整備 事業費 5,568 千円×補助率 0.7 0.6ha)	4,000		
土地改良施設維持管理適正化事業(小沢根水路改修 400m)	10,000	諸収入(交付金)	9,000
有害鳥獣防除電気柵設置等補助金 (市単補助:防護柵・施設等設置資材費に対し、1/3 以内補助)	280		
有害鳥獣防除対策事業(地元への原材料支給 大布施地区)	1,034	県補助金	500
松くい虫防除対策事業費 (伐倒駆除材積 450 m ³ 、無人ヘリ (6/10 県費補助))	11,615	県補助金	6,613
番所ヶ原スキー場リフト利用補助 (武石地域住民 大人一日券 3500 円 2800 円)	981	地域振興基金	981
建設課			
(主)美ヶ原公園沖線 兼用側溝整備費負担金	2,000		
市道小沢根線(舗装改良 L=700m)	30,000	合併特例債	28,500

道路維持費単独枠(自治会からの要望箇所や維持管理費)	16,000		
道路建設改良費単独枠(自治会からの要望箇所の整備)	15,000		
市道上武石沖線(舗装改良 L=1000m)	50,000	合併特例債	47,500
河川用悪水路改修工事(所沢川改修 100m)	4,000		
デマンド交通運行管理委託	13,650		
教育事務所			
市有建物解体工事(JA 選果場・武石小学校体育館解体)	30,200	地域振興基金	22,000
児童館実施設計	7,875	合併特例債	7,480
〃 建設用地測量	2,625		2,420
高校生通学補助(125名×50,000円)	6,250		
中学校組合負担金(負担率 122人/264人(42.4%))	48,364		
武石公民館コミュニティホール照明増設工事	3,500		
総合グラウンド管理事業(テニスコート砂入り人工芝工事)	45,000	合併特例債	42,500

(桜井会長)

このことについてわからないことやご質問などがありましたらお願いします。

(委員)

持ち寄り基金の使い方ですが、20年度ですでに35,000千円ほど使うということですが、こうして目減りしてしまったら、大きなものに使えなくなるのではないかと思います。これからもそういう計画はあるんですか。

(広川課長)

今の激変緩和的な支出というのは、先ほど申し上げましたとおり何年間補助していくかが決まれば具体的になります。今この基金を使って大きな事業をしようという計画はありませんが、皆さん方にお諮りしたように地域協議会の委員さんからの提案でそういう事業にも活用できるということにもなっていますので、これから皆さん方に住民の方からの声を吸い上げてもらってそういうものをあげてもらうことも可能です。

(委員)

あるお金を少しずつ使っていて、いつ何に使ったかわからなかったというようなことは避けたいと思います。住民の皆さんにもその都度知らせていくことが必要なのかなと思います。

(桜井会長)

他にありますか。

私の方からよろしいですか。依田窪病院の負担金が前年より増えているのはなぜですか。

(宮下センター長)

病院の起債の関係や医療機器の更新の関係などがあるかと思います。

(桜井会長)

児童館の実施設計が出ていますが、業者選定についてはコンペを予定していますか。

(児玉所長)

業者は選定委員会で決めていただきますが、この金額ではおそらくコンペにはならないと思います。基本設計は、建築課と武石地域教育事務所で組んで、それを基に発注します。

(委員)

総合グラウンド管理事業でテニスコート砂入り人工芝工事で45,000千円計上してありますが、以前グラウンドをつくったときに不備があったというようなことで、十数年前にやり変えているかと思います。そのお金も確か大きな金額だったと思います。テニスコートはまた大きな金額をかけてやり直すということですか。

(児玉所長)

テニスコートにつきましては、下の状態が悪いこともありますが、砂入りの人工芝ということで、人工芝のお金が大部分になってきます。

(宮下センター長)

今までも舗装のやりかえをひんぱんにやっていましたが、すぐひび割れてしまいました。地下水が非常に高く、武石川の川底よりもテニスコートの方が低いような状態ですので、結局冬の間凍結してしまいひび割れてしまうということです。本当は30cmほどあげた方が具合がよいと思いますが、それもまたお金がかかります。人工芝になれば、ひび割れということはないかなと思います。

(桜井会長)

グラウンドにつきましては、ちょうど私が担当していたのでお話ししますが、あそこは元々河原地だったわけです。そこを整理してグラウンドにしようということになったんですが、川でしたので非常に石があり、それをすべて業者に持って行っていただいて、持っていった車でグラウンド用の土を運んでもらって、現実的にはお金をかけないで、石を売ったお金と土を入れたお金でペイできるということでやってもらいました。それがお金をかけていないので、だんだん重圧で田んぼのようになってしまい、お金をかけて整備してもらったという経過です。

他に何かありますか。

(委員)

有害鳥獣の柵の関係で、本年度は市之瀬、来年度は大布施で設置するということですが、説明の中にもありましたが、県の予算がつかないとできないということなので、ひとつの地区でやるとやっていないところへ入ってきますので、非常に大変になります。ですので、何らかの措置をできるだけ早急にしていくような方法を、市としても県へ要望したり、地域予算の中で考えたりして何らかの方法をとっていかないと、みんなやっていなければ平均にやられるからいいんですが、柵をやったところはよくてやらないところはもっと大変になってしまいますので、何とか善処していただきたいと思います。よろしくお願いします。

(桜井会長)

他にありますか。質問についてはよろしいですか。

それでは平成20年度予算については以上とします。

・分科会について

(桜井会長)

次に私の方でお願いして2つの分科会に分かれていただき、今後の基金の使い方やこの地域

に何が必要かということを確認し、会議をしていただきました。今期の協議会は今日で終了しますので、その結果等について分科会の会長から報告をいただきたいと思います。

最初に市民生活部会からお願いします。

(委員)

市民生活部会のまとめについて資料に基づき説明

《説明内容》

<市民生活部会のまとめ>

1月24日・・・正副部会長で地域内の公共施設を訪問して現状と課題を聴取

1月25日・・・部会を開催。訪問結果を報告し、部会内で「要望・検討事項」を検討しまとめ、
2月の地域協議会で発表

部会の活動が2ヶ月あまりで改選期となり十分な活動はできなかったが、まとめてみると、

1. 施設を訪問することで現状と課題が明らかになった。
2. 部会にすることで地域の課題を、少人数で、より深く考えることができるようになった。
3. 委員として自分で行動して、調査研究することの必要を認識できた。

などがあげられる。

これらのまとめを次の部会の皆さんに受け止めていただき、委員個人個人がアクションを起こし、地域課題の把握に努め解決策を明らかにすると共に、よりよい武石地域の実現にむけて地域づくりの方向性も協議会全体会に提案できるよう部会活動を推進していただきたい。

(その他)

七ヶの火災から学んだこと・・・水利の問題。大堰水路工事中のため水が流れておらず、貯水槽を利用したらわずかの間に終わってしまったとのこと。幸い近隣への類焼は避けられたが、ほぼ全焼。水利の問題をより深く考えていかないと、第二にこういう状態が起こり電話する間に燃えてしまうようなことが起こる心配がある。お年寄りの生活の場が、今度は施設から地域に戻されるという中で、これを地域課題としてどう考えていくか。火災警報器の設置の義務付けや一人暮らし世帯の緊急通報システムの拡大も考える必要がある。

消火栓を使える人がいない。女性消防隊への研修も必要ではないか。初期消火の実施。

(桜井会長)

続いて、地域振興部会についてお願いします。

(委員)

地域振興部会のまとめについて資料に基づき説明

《説明内容》

(基金の用途に関する考え方)

- ・ 利用補助券などの使って消えてしまうものか、形あるものにした方がいいのか考える必要がある。

- ・ 新上田市になり必要になるハード事業があってもよい。道路もあるだろう。
- ・ 基金をつかって、形あるものを残したい。
- ・ 武石の住民に用途について、広く聞いてみる必要があるのではないか。
- ・ 地域にはいろいろな団体があるので、それをまとめた中で検討したらどうか。
- ・ 地域協議会だけではわからない分野もあるが、委員が調査してまとめたほうがいい。

(具体的使い道)

- ・ 児童館整備で、解体のほかに基金を使うことはないか。
- ・ 生活改善グループの借りている農産加工場が老朽化しているため、その改修か移転整備に使えないか。
- ・ いろいろな活性化団体に眼を向け補助したらどうか。商工会の運営や獣害のフェンス、エコーズフェスの農業機械等。

(まとめ)

- ・ 持寄基金約 3億 8000万円は、武石村の財産を売ったお金を元に造成し、大切に守ってきたため、諸先輩の思いや気持ちを汲んだ中で使い道を考えていただきたい。
- ・ 部会での考え方を基にして次期協議会の委員の皆さんに基金の使い方を考えていただきたい。

(桜井会長)

ありがとうございました。それぞれに大変熱心にご協議いただきました。前回もご報告いただきましたが、ただいま両部会長さんからお話がありましたように、住民の財産というかたちの中で残したお金ということで、歴史的にも重みのあるお金ですので、慎重にこれをどう扱うかということは非常に大きな課題だろうと思います。今、ご報告いただいた中でも、特に住民に納得していただいて、ある程度長期にわたって考えていく必要があるのではないかとということがあります。私もそれが原則だろうと思いますし、本当に住民のニーズに答え、住民福祉につながるものに利用して「あぁ、よかったな」というような結論を出していく必要があるのではないかと思います。今の段階では、ひとつの方向性というものが具体的には出てきませんが、今回協議していただいたことを基本として、これから先この協議会は何年も続いていくわけですから、その中で具体的な問題は十分検討していただければと私の方からもお願いします。その上でも事務局の方である程度前回報告いただいたものも含めてまとめておいていただければと思います。

それでは、ただいまの件で質問等がありましたらお願いします。よろしいですか。

これを糧として、次の協議会でまた協議をしていただくということでよろしくお願いします。

- ・ オフトーク通信に関するアンケート結果について (地域振興課)

(桜井会長)

次にオフトーク通信に関するアンケート結果について、ご報告をお願いします。

(掛川主事)

オフトーク通信に関するアンケート調査結果についての資料に基づき説明

《説明内容》

(オフトーク通信アンケート調査結果)

問1 現在、オフトーク通信に加入していますか？

- 1. いる 89%
- 2. いない 9%
- 3. 無回答 2%

いないと答えた方にお聞きします。

ア 加入しない理由はなんですか？

- 1. 固定電話を入れていない 20%
- 2. インターネットを接続するのに不都合である 12%
- 3. 必要がない 36%
- 4. その他 16%
- 5. 無回答 16%

いると答えた方にお聞きします。

ア 放送をよく聞く時間帯はいつですか？(複数回答可)

- 1. 朝(午前7時15分～) 58%
- 2. 昼(午後12時15分～) 24%
- 3. 夜(午後9時10分～) 51%
- 4. ほとんど聞かない 14%
- 5. 無回答 11%

イ よく聞くお知らせ、必要だと思うお知らせは何ですか？(複数回答可)

- 1. 行政からのお知らせ 60%
- 2. 告別式のお知らせ 69%
- 3. 気象情報 9%
- 4. 緊急放送 61%
- 5. 臨時放送 47%
- 6. 広告放送 48%
- 7. その他 1%
- 8. 無回答 10%

問2 丸子テレビに加入していますか？ 参考…丸子テレビ加入世帯 1,070 世帯(H20.2 月末)

- 1. いる 74%
- 2. いない 21%
- 3. 無回答 5%

問 3 新設工事費(数千円)と受信料(数百円)を負担していただくことになった場合、告知放送に加入しますか。

1. 加入する 31%
2. 加入しない 20%
3. どちらともいえない 37%
4. 無回答 12%

問 4 今後も告知放送は必要だと思いますか？

1. 放送による告知は必要である 54%
2. 広報紙や回覧でよい 12%
3. どちらともいえない 22%
4. その他 3%
5. 無回答 11%

自由意見欄

…放送時間帯、音楽、インターネットとの関係、アナウンス等に対する意見が寄せられた
(意見に対する対応)

・ 気象情報のお知らせは不要との意見多い、必要性低い 4月 1日から取りやめ

・ 加入していない理由のひとつとして、転入者に対する説明がなかった

市ホームページに説明や申込方法の掲載、転入者等に対する窓口での対応(チラシ作成)

(広川課長)

今まで委員の皆さんには、近いうちに丸子テレビ放送のケーブルを利用した告知放送を検討しているということでお話をしてきました。アンケート結果もそうですが、今、市全体でも通信の関係で上田市情報化基本計画というものをつくっており、この3月に素案がまとまります。その中で我々が考えている以上に、ICT(情報通信技術)の時代においては日進月歩ではなく秒進分歩だといわれるくらいどんどん変わっていきます。オフトークのアンケートの中にもありましたが、オフトークはその当時の最適なことだといっていたのが、今は古いのではないかということです。今、情報の伝達手段というものはものすごく進歩しています。市でも20年度予算の中で、それぞれのケーブルテレビを使って市の専用チャンネルを設けて情報を出すということも出てきました。また、今市のインターネットを利用していろいろ情報を吸収している方が非常に増えてきています。全国のデータと市のデータがありますが、全国のデータでは85.6%、約9割近い事業所がインターネットを導入しています。個人のインターネットの普及率も68.5%に達しています。市でも18年11月から12月にかけて、地域情報化に関するアンケートをとったわけですが、この数字を見ましても、今現在インターネットを利用している市民の方が49.5%ということで、5割近い方がインターネットを利用しています。また、今後利用したい人を加えると65.4%という数字が上田市でも出ています。そうしたことやオフトークのアンケート結果で気になっているのは、有料になっても加入するかといった場合20%の方は加入しないとはっきりいっていますし、37%の方がどちらともいえないといって

います。ですから、有料となった場合には最悪のことを考えると 50% くらいの方は加入しないということも考えられます。先ほど言った今年の秋から市の専用チャンネルが始まるということもありますし、オフトークを丸子テレビのケーブルを使った告知放送に移行したいということで市長の査定が行われたときに、市全体の中でも整備計画を考えているので、全体の整備計画がある程度整合性がついた中でももう少し考えたらどうかということでも言われております。その辺と併せまして、市の最新の情報を仕入れて皆さんに提供して、皆さんの意見をお聞きしながら、オフトークの今後のあり方について 20 年度 1 年かけてじっくり検討していきたいと考えています。我々も考えた以上に市の中でも新しい考え方がどんどん変わってきていますし、FM 放送の関係も出ています。お年寄りの方はインターネットが普及してもそういう情報伝達手段では困るのではないかとありますが、テレビを使えば、ある程度年配の方でも情報を知ることができると思いますので、例えば専用チャンネルの中で武石の時間帯を何時から放送を流しますということになれば、それを利用するかということも考えてやっていきたいと思います。2011 年 7 月からはアナログ放送が廃止になってデジタル化になるということもありますので、非常に進歩した状況の中で、私たちの告知放送のあり方というものを考えていかなければいけないのではないかと思います。新しい年度になりましたら共々お知恵をいただきながら考えていきたいと思っていますのでよろしく願いいたします。

(桜井会長)

情報化時代ですから、非常に大きな問題ですし、こういう田舎でもこれまでのような情報は必要になるわけですから、十分に行政側でもご検討いただいて、やるときには新しく長くできるような方法を検討していただきたいと思います。

この問題についてご質問等がありましたらお願いします。よろしいですか。

それではこの問題については終わりにします。

・ デマンド交通に関するアンケート結果について (建設課)

(桜井会長)

次にデマンド交通に関するアンケート結果について、ご説明をお願いします。

(桜井課長)

デマンド交通に関するアンケート調査集計表についての資料に基づき説明

《説明内容》

(デマンド交通に関するアンケート調査集計結果)

問 2 あなたの家族構成を教えてください。

1. 一人暮らし 15%
2. 夫婦二人 25%
3. 二世帯 32%
4. 三世帯 19%
5. その他 9%

問 3 あなたの世帯は、これまでデマンド交通をご利用いただきましたか。

1. 利用した 23%

2. 利用しない 77%

問4 問3で「利用した」とお答えの方にお聞きします。利用頻度はどのくらいですか。

1. 毎日 3%
2. 週3回 4%
3. 週2回 4%
4. 週1回 7%
5. 月2回 10%
6. 月1回 10%
7. 必要なとき 61%

問5 問3で「利用しない」とお答えの方にお聞きします。利用しない理由は次のどれですか。

1. 車を運転する 98%
2. 土曜の運行がない 3%
3. 高校通学時間と合わない 4%
4. 料金が安い 2%
5. その他 1%

自由意見に対する対応

苦情・・・ 車内の煙草の臭いが気になる 現在はなくなっている

狭い道で道を譲ったのに運転手からあいさつがなかった（運転手のマナー）

調査を行いマナーの悪い運転手は外した

今配布してあるパンフレットが見にくい

簡略化し見やすい利用方法のパンフレットを検討していきたい

電話機に貼れるよう受付センターの電話番号シールを作成する

建設的意見・・・ 運転できなくなったときに利用するので長く続けてほしい（50件）

利用する人がいる限り続けるべきだ（29件）

依田窪病院がやっている土曜日にも運行してほしい（17件）

土日に利用できたらよい（10件）

高校生の通学で大屋駅の電車に間に合う時間帯に運行してほしい（8件）

（桜井会長）

ただいまの件についてご質問等ありましたらお願いします。

（委員）

業者の採算性は、どのくらいでやられているんですか。

（桜井課長）

聞いたところによりますと、黒字ではないということです。極端なことをいいますと、やらせていただいているという状況だそうです。ですから、バスは全体的に動いていますが、特にガソリンの値段が上がってきているということで非常に苦労されているということです。そう

はいっても、お金が足りないからといって簡単に出来るわけではありませんので、市のほうとすれば利用者を増やしてもらおうことがいちばんじゃないかと思います。利用していただければ、それなりにある程度業者の要望に対して上乘せするという話も出てくるかと思いますが、今のところはなかなか運行経費を上げていくということは難しいかなと思っています。今は、業者には苦勞をかけて頑張ってもらっているという状況です。

(委員)

おかげさまで、西武のような地域にも毎日上ってきていただいて、大変ありがたく思っています。できればという希望なんですけど、今、飲酒運転に対する罰則が強化されています。そうかといって飲む機会はありますので、例えば丸子で飲んで家まで帰ってくると、タクシー代は8000円ほどです。上田から帰ってくると15000円ほどです。そういう状況の中で、もう少し夜間も運行できるかたちがとれたら、山に住むも者も住みやすくなりますので、何かいい案を考えていただければと思います。料金も含めてお考えいただければ、大変ありがたいと思います。

(桜井課長)

大変けっこうなご意見をいただきました。希望ということですが、やはりご意見の中にも夜遅くまで運行してもらいたい、朝もう少し早く運行してもらいたいという要望がありました。やはりデマンドバスそのものの体質が福祉面、交通弱者の皆さんの足ということがいちばんの基にあります。確かに言われていることはごもっともだと思いますが、できればそういった場合はタクシーをご利用いただいて、業者さん方も潤うようなかたちでお願いできればと思いますが、ご意見としていただいております。

(委員)

ただいまの委員さんのお話ですが、実はいちばんの基は、若い人たちが夜交通の便が悪いから何とかしてもらえないかということから始まりました。それが始まりで、どういうものがあるかという話で視察をして、デマンド交通というものがあるということで、行政へお願いしたところ検討してみようということで、さっそく検討してもらってこういった方向になったわけです。結果として、先ほどのお話のように福祉的な要素が主な乗り物ですから、なかなか両立するということが難しいわけです。ですので、委員さんが言われるようなことは無理だと思います。最初は目標として、この地域の住民の人数からしてほしい1日30人くらい利用できればいいかなということで始まったんですが、18年2月から運行してそのときには1日平均が20人程度でした。19年度はちょうど30人になりました。いちばん多いときには、40人くらいのときもあります。今は2台で運行していますが、40人いると2台が1日中フル回転していて、途中で弁当を食べる時間もないという状況のようです。ただいま桜井課長の方からお話がありましたように、エリアを伸ばして丸子地域の方までエリアとして含めていくとしたら、もう1台か2台増やさなければ無理かなという状況です。採算ベースに合わないわけですが、あくまで福祉的な要素のものでありますから、それはそれとして生きるわけです。青木村でデマンドバスの話が持ち上がっているようです。青木村では今、巡回バスをやっていますが、年間900万円ほどかけていて空で走っているのだから何とかしなければいけないといって、デマンドバスを視野に入れて検討を始めているということです。デマンドバスは、最初は利用者が少ないけど、だんだん利用者が増えていくという状況で、逆に巡回バスとかバス停で停まるよ

うな交通機関はだんだん利用者が減っていくようです。何とかしてこれからエリアを伸ばして、上田駅まで行かれるような、あるいは真田やささらの湯までもデマンドを利用しながら行かれるようになればいいなと思っていますが、なかなかタクシー会社やバス会社との関係があって難しいようです。安曇野市では、堀金村でやっていたデマンドを全市へエリアを広げて15台で今、試行運行をしているようです。そこがうまくいけば、上田市でも可能性はあるのかなと思っていますので、できるだけ皆さん方からもなるべくデマンドバスを利用してもらうように宣伝していただくようお願いいたします。

(桜井会長)

他によろしいですか。

それでは、この問題については終わりとします。

・今期のまとめについて

(桜井会長)

事務局の方で、地域協議会の活動についてまとめていただきましたので、それについてご説明をお願いします。

(児玉係長)

今日は第1期武石地域協議会の最後の協議会の日ですので、18年度と19年度にいろいろとご活動いただきましたことを資料へまとめてみました。地域協議会の活動報告と答申をいただきました上田市総合計画の武石地域まちづくり方針、武石地域協議会で提出した2件の意見書と回答、その後の経過報告です。また、資料をごらんになっていただければと思います。冒頭の宮下センター長のあいさつの中にもありましたように、武石地域協議会は、上田市の9つの地域協議会の中でも活発で有意義な活動をしている協議会だということで、非常にうらやましがられる協議会でした。特に意見書は、上田市全体に先がけて初めて出されましたし、それがすぐに市の政策として武石地域自治センターだよりというかたちで実現してきたという実績を持っているわけです。そういうことを踏まえながら資料の方を見ていただきたいと思います。平成18年度は第1回9月28日に委嘱をいたしました。18年度は全部で6回協議をしていただきましたが、中でも総合計画の武石地域のまちづくり方針についての協議が中心だったかと思います。地域まちづくり方針の答申内容の7項目をご検討いただいて、決めさせていただきました。これが武石地域のまちづくりの方向性のいちばん大事なものになっています。これからもこの7項目をベースにしているいろいろなかたちで武石地域の地域づくりがされていくことになりますので、目を通していただければと思います。19年度に入りまして、本日まで10回協議会が開催されました。前半は、子育て支援の拠点施設についてのご検討をいただき、6月29日に意見書を提出していただきました。それから後半に入りますと、地域予算や地域予算に伴う基金の使いみちということで、非常に熱心にご検討いただきました。これは今年度の成果として、今日発表いただきましたように来年度の20年度予算に反映されていると同時に、これから先10年間基金をどうしたらいいか、地域予算をどう使ったらいいかということをもととして、これからも検討のいちばんの基本になる資料ができたかなと思っています。12月からは部会を2つ設けて活動をより深めていただきました。以上2年間概観しますと、初めての協議会でありましたが、非常に活発に実施していただいて、これから先の方向性を明

確に決めていただきまして、事務局としても非常に感謝しているところです。この協議会委員の皆さんは終わっていくわけですが、またいろいろなところで助言をいただければありがたいなと思います。まちづくり方針ですとか意見書等は、皆さんに目を通していただければありがたいと思います。

(桜井会長)

皆さんには、あとで資料をごらんいただきたいと思います。また新しい年度に入って、新しい委員になりますので、これをベースにしてご検討いただければと思います。お願いします。

5 その他

(桜井会長)

会議事項については以上ですが、続いてその他で行政の方から何かありますか。

(児玉係長)

その他で1点お願いします。上田市都市計画マスタープラン地域別構想(修正案)をお配りしてあります。これは、地域協議会で5回にわたりご検討いただきました都市計画マスタープラン地域別構想の皆さんのご意見を集大成したものです。前回、都市計画課で地域別構想(案)を提示しましたところ、皆さんからいろいろご意見がありましたので、そのご意見を基にして、将来像の中に基本目標が3つ項目立てしてあります。その基本目標のアンダーラインを引いてあるところが前回の地域協議会での皆さんの意見を基に修正させていただいたものです。委員の皆さんから、子育て支援をいうものを基本目標の中に入れていただきたいというご意見がありました。それから、都市の交流や地域内との交流、体験の場の創出というのも長文にせず、相対的にまとめたらどうかというご意見もいただきました。そういったご意見を生かしながら、基本目標としてこの3つを修正案として提案するということです。今日、ここで提案しました修正案について、何かご意見がありましたら事務局で承りまして都市計画課の方へお話をつなげていきたいと思います。ここでマスタープランに関する地域協議会の皆さんへの説明は一段落しまして、今度は自治会長さんを対象にいろいろなかたちでご相談をしていくという段階に入っていきそうです。また、武石地域でも数箇所、都市計画のマスタープランあるいは都市計画の区域の変更等についての会議が開かれるようになるかと思いますが、そのときには地域協議会の委員さんという立場で会議に出させていただいて、いろいろなことでここで協議した内容等も発言いただければありがたいと思います。

(桜井会長)

この問題については、何回も協議していただいたことですのでよろしいかと思いますが、何かご意見ありますか。よろしいですか。

それでは、この問題は以上にします。

もう1点、皆さん方にもご通知があったと思います。予算にも上がっており、児童館がいよいよ具体的になるわけですが、それに対して視察をされた委員の方から視察のご報告をお願いします。

(委員)

3月5日(水)に総勢12名(バス運転手含む)で上越市の南川児童館と放課後児童クラブへ視察に行ってきました。そこは、老人福祉施設(デイサービスセンター、高齢者生活支援ハ

ウス、ショートステイ)と児童館・放課後児童クラブと保育園が入った3つの働きをしているところでした。その施設ができる前は放課後児童クラブに所属していた子どもたちは30名ということで、おそらく新しく施設ができてその程度だろうという見込みでつくったそうですが、結果的には80名という子どもたちを抱えて、施設内は子どもたちでガヤガヤしており、余裕がまったくない状態でした。当初の予定より子どもが増えてしまったために、子どもたちの荷物や冬場のコートの保管場所がないということで、玄関の外で脱いで入ってくる状況でした。放課後児童クラブ(武石でいうピーターパン)は80名ということですが、児童館として子どもたちが通ってくるのは2名ということでした。上越市全体を見ても、放課後児童クラブの方がはるかに数字が多くて、児童館として利用している子はそうはいないということでした。建物をつくるときにいったいどれだけの利用があるかという見込みを誤ってしまうと、南川のような状況になってしまうのかなと思いました。だいたい住み分けもできていて、子どもたちがいつもいる場所も決まっていて、そこにたまに中学生が入ってくるんですが、走り回っている小学生を横目に隅の方で自分のやりたいことをやっているという状況のようです。中高生の利用について聞いたんですが、数は少ないんですが来ていないわけではないということでした。以上です。

(桜井会長)

ありがとうございました。新しい時代に入って、これから行政が箱物をつくることは非常に研究を要するものだと思います。今のご意見のように、実際に活用することが少ないものを市としてつくってしまったということのないように、教育事務所を中心として十分にご検討いただいて、そこに参加される皆さんの意見を十分聞き、より効率的なものを取り入れていただくよう、皆さんの意見を聞く機会をマスタープランの段階から設けていただくよう、具体的にお願ひしたいと思います。よろしくお願ひします。

(小山副会長)

以上で最終となる第10回地域協議会を閉会といたします。皆さん、お疲れ様でした。